

1910

號

二

第

陸軍省

院

件番受

了結領受出處領受院番

明治 年 八月十六日	明治 年 八月十六日	明治 年 八月十六日	明治 年 八月十六日	軍事課第九四號
------------------	------------------	------------------	------------------	---------

長局帶聯

主務局長

參事官

次官

長課帶聯

主務課長

高級副官

者記筆案審

主務課員

主計

主務副官

名 下士兵卒ノ教育指導上注意スル件

院

陸軍省 軍事課 第九四號

廳名

軍事課

大臣ヨリ陸軍一般、御訓示案

下士兵卒ノ教育指導ニ関シ、當事者ノ服膺
 スヘキ事項ニ就キテハ既ニ屢々訓戒ヲ與ヘ洽
 ク各官ノ熟知スル所ナルニ拘ラス、近來往々其
 ノ道シ誤リ為ニ軍紀ヲ害シ、延ニ軍隊ノ威信
 シ失墜セシトスルモノアルハ遺憾ニ堪ヘス例ヘハ
 將校ニシテ下士兵卒ノ學術ノ成績不良又ハ不正
 ノ行為ニ對シ一時憤激ノ情ニ驅ラレテ之ヲ毆打
 シ甚シキハ創傷セシメタル者アリ、概ネ職務ノ熱
 誠ニ基ク失態ト認ムト雖、苟モ軍隊ノ模範タ
 リ部下ノ儀表タルヘキ將校トシテ斯ノ如キ輕

擧ミ出ツルハ最モ戒慎ヤサルヘカラス抑モ軍隊ノ教
 育ハ嚴正ナル軍紀秩序ノ涵養ヲ以テ本義ト為ス
 勿論ナリト雖此等粗暴ノ行為ハ却テ幹部
 威信ヲ損シ隨テ部下シテ服從ノ念慮シ薄弱ナ
 ラシムルナラス世人シテ軍人就中將校ノ品性ニ
 對シ不滿シ懷カレメ瑣事ヲ摘抉シテ皇張誇大
 ノ流説シサレ總テ排除ヤントスレハ或ハ誤テ歐洲某
 國ノ如ク將校慢ニ下士卒ノ歡心ヲ迎フルニ汲々タ
 ラサルヲ得サルカ如キ不祥ノ現象ヲ惹起シ為
 軍隊ノ威信ヲ失フニ至ルノ虞ナレトセス又近時
 勤務演習召集中ノ下士卒ニシテ其ノ待遇ニ不滿

シ抱キ或ハ上官ノ指導ヲ以テ不當ト為シ多數
 シ恃ミテ暴行シ逞フレ或ハ軍紀ニ背戾スルノ行
 為ヲ敢テセシ者等數カラス今ヤ國軍編成ノ要素
 此等在卿者ニ俟ツ所頗ル多ク其ノ精粗ハ直接
 國軍ノ能力ニ影響スルコト甚大ナリ萬一豫後備
 役者ミレテ斯ノ如キ惡風ニ感染セシカ國軍ノ前
 途大ニ憂フヘシ由來精甚嚴格ノ慣習ヲ失ヒ易
 キ豫後備役者ニ對シ短少時間ニ幾多軍事
 ノ復習ヲ實施スルハ頗ル難事トモテ特ニ教官、
 練達^{ヒル}技倆ト懇篤ナル誠意トヲ要ス尙
 事者タル者須ク此ノ點ニ留意ト殊ニ社會一般

ノ風潮、鑒ミ嚴格ノ指導ト適切ノ教育トシ盡
 レ以テ能ク召集ノ目的ヲ達スルニ遺漏ナキヲ期
 ス^{ビツルヘカシ}然^{カモ}リ^{カモ}雖^モ若^シ彼等^ノ苟^モ軍紀ヲ紊^ルリ秩
 序ヲ壞^ルルノ行為アルニ於テハ毫モ倣^ス借スルコトナク
 刑罰^ヲ峻^ニ嚴^ニシ^レ以テ軍隊ノ威信ヲ振^ス張^スス^{ヘシ}若^シ
 レ未^レ苟^モ犯^ス行^ヲ等閑ニ附^シ若クハ之カ處罰^ヲ輕^ニ
 視スルカ如キコトアラシカ實ニ軍紀ノ大罪ニシテ弊害ノ
 及^フ所極^メテ深甚ナルモノアルヲ銘^シ記^スヤ^{ハカ}ス
 要スルニ以上ノ諸件ハ近來各所ニ發生シタル事實ニ
 シテ茲^ニ更^ニ之^ノ注意ヲナス^ル要^スナ^リ至^リタルハ本
 官^ノ最^モ遺憾^トスル所ナリ職^ニ教育^ハ任^ニ在^ルモノハ
 大^ニ任^ニ在^ルモノハ

能ク上ノ主旨ヲ體シ嚴ニ部下ヲ督勵戒飭シ以テ失態ヲ未然ニ防ギ努力ムヘシ

陸訓第一五號

八月廿六日

雨好